

「イエスの御側に」

～この世と神の国 iii～

ヨハネ 12：1～11

■ あなたは今イエス様のどこにいますか？

マルタは給仕していました。ラザロは群衆の中に、食卓の中にいました。しかし、マリアはイエス様の足元にいたのです。マリアはいつもイエスの側において、彼女はいつもイエス様の言葉を聞き漏らさないように側にいました。マリアは持論を持たずに自分の思いは全て置いてイエス様の前にいてただ聞いていました。

■ 『えっ！？』と思う神様の言葉

礼拝の中で聞かないといけない神様の言葉はあなたが『えっ！？』と思ったことです。それは自分に取って嫌であったり、自分に取って聞きづらいことが多いのです。この様なことが神様が今日あなたに伝えたいことなのです。礼拝に望む時に 2 種類の人があります。神様が自分に何を語ろうとしているか真剣に探す人。神様に言われたことを自分の価値観と照らし合わせてどうだろうか？と聞いている人。自分の価値観で聞いていると真意まで行かないで、『どうだろうね』が出て来ます。『どうだろうね』と思いながら聞いていると神様の話は聞けていないのです。私達はこの世の価値観と、神様の価値観を競り合わせてしまいます。集中していないと聖書に書かれていること、神様があなたに伝えたいことが分からないのです。神様は、あなたに立派になってほしいから伝えているのではなく、あなたに幸せになってほしいから伝えているのです。神様の言葉は、耳で聞いて心で感じなければ分からないからです。

■ 悔い改めるチャンス

イエス様はユダの罪を知っていたが金入れを取り上げることはしませんでした。ユダは悔い改めることをしなかったのです。罪を正当化するために自分は正しいと言うためにマリアに語りかけたのです。ペテロもイエス様を裏切りましたが、それでもイエス様の前に出ていこうとしました。しかし、ユダは悔いて死にました。聖書はユダとペテロを比較したいのではなく、あなたにどちらを選ぶかを伝えています。

■ まとめ

マリアはいつも御側に！！
御ことばに聞き入っている！！
～のあることばは危険
ことばは不要
香りは後から立ち上がる
罪の根には悪が働く
あなたの礼拝、献身、奉仕とは何か

マリアはいつもイエス様の御側にいました。そして、いつもイエス様の会話に聞き入っていたのです。聞き入るとは、聞いているのとは違ってすべての会話を 120%で受け取ることです。神様の言

葉を納得しようとせず、語られる言葉を信じて『アーメン』と言えればいいのです。それは、私たちのためにいのちをかけて下さったイエス様はそれほどまでに信頼できるお方だからです。自分の中で心の値打ちを調べてください。自分が話している背景が本当に真実かどうかは自分が分かっています。自分のためにいい事を言っていることがあるがそれは無意味です。ある牧師先生が結核になって療養所に入った時のことです。その療養所で軍の下士官が仕えていて、この人は自分が結核に感染してもいいくらいの気持ちで仕える素晴らしい人でした。ここには軍の礼拝堂がありここでいつも礼拝が行われていました。その先生が礼拝に行くときと講壇がいつもピカピカでなぜホコリ一つないのか？と聞いていました。夜中の 1 時にここで仕えていた下士官の彼がいつも人知れず講壇を掃除する奉仕をしていたのです。ほんとうに小さなことを忠実に誰にも言われず、誰にも言わず正しいことを行動で行っていました。彼がその場でできることは、病の人の隣人になることと、自分のために命をかけて下さった神様の講壇がいつも輝いていること、それが礼拝だと彼は言っていました。先生はこの姿を見て自分の礼拝が変わったと言われていました。彼の行動は言葉より先生の人生を変えたのです。だから言葉は要らないのです。その時すぐ分る事ではない、香りは後から立ち上がるのです。そして、あなたがしていることがほんとうに神様の真意を求めているかを探ってください。これがイエス様の足をそっと高価な香油で拭っていたマリアの姿です。

最後に

マリヤが、イエス様に何百万もする最高級の香油を使ったのは、この時既にイエス様が十字架にかかれることを悟っていたと言われていました。実際に、こんなにイエス様と親しかったマリヤとマルタはイエス様がお墓に葬られた時、2 人の姿はありませんでした。それは死んで蘇られる事を悟っていたからです。死んだのに生き返ったと言う素晴らしい神様の御業を自らで体験したにもかかわらず、群衆の 1 人として、遠巻きにイエス様のことばを聞いていたラザロ。いつもと変わらず自分が役に立つ、自分がしたい事しながら聞いているマルタ。そして、ただ静かにイエス様のことばを一言も聴き逃さず聴くことに心を尽くして主の前にひれ伏すマリヤ。私たちは今自分の立っている場所を確認し、振り返り、マリヤのように聴くもの悟るものひれ伏すものとなっていきましょう。

(要約者: 泉水 浩)

(2018年10月14日)